

## 【課題2】

# アイヌ民族に関する学習を窓口に人間尊重の意識を高める研究の推進

### ①児童生徒・学校の実態

#### 【児童の実態】

- ・多くの子どもが学校が楽しいと感じている。
- ・自分にはよいところがあると感じている子どもが多い。
- ・自分は、他人に認められていると感じている子どもの割合が少し低い。
- ・自分はみんなと協力して学習したり、係などの活動をしたりしているという割合も少し低い。
- ・周囲に温かい言葉がけを意識する子どもが多い。
- ・学ぶ意欲の高い児童が多い。

#### 【学校の実態】

- ・生徒指導集会の月1実施で児童の相互承認を高める教師力の向上が図れている。
- ・同僚性の高い教師集団である。

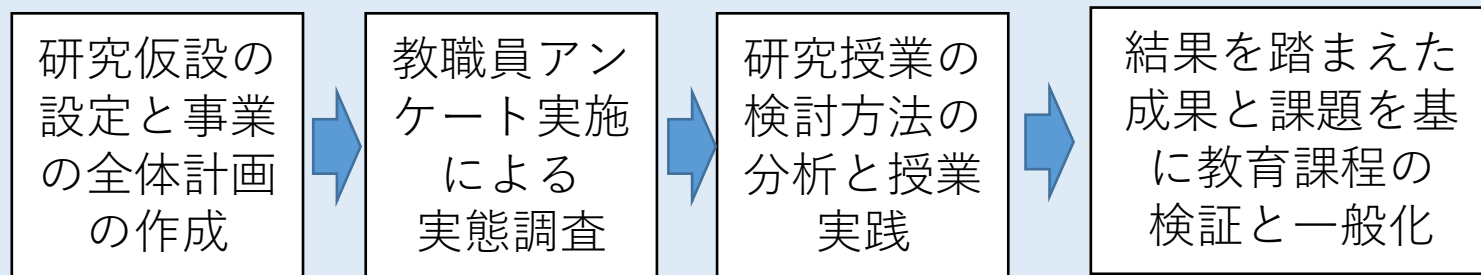
### ②ねらい(目標)

- ・アイヌ民族に関する授業研究を通して、児童の人間尊重の意識を高めるとともに、教職員の相互承認の感度を高める。

### ③活動内容

- ・「人間尊重の教育」推進事業全体構造の作成
- ・教職員アンケートの実施と結果の還元
- ・アンケート結果とアイヌ民族を教材化した先行実践を踏まえた研究授業の実施

6月	研究の仮設の検討
7月	全体構造の作成
8月	授業実践に向けた教材研究
9月	教職員アンケートの実施
10月	4年生武居実践の公開
2月	6年生岩淵実践の公開
2月	研究のまとめ





# [課題2] 令和5年度「人間尊重の意識」推進事業ノホ口の丘小学校全体構造

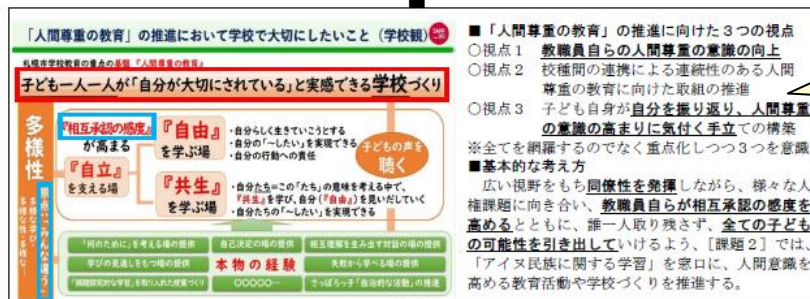
令和5年度

## 「人間尊重の教育」推進事業ノホ口の丘小学校全体構造

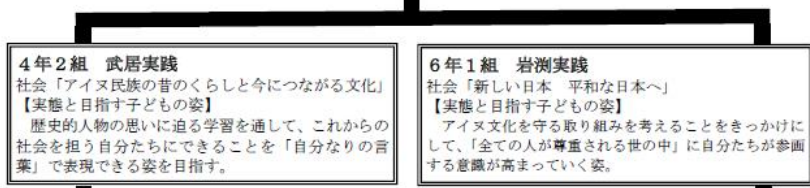
【研究事業1】多様性に向き合う学校教育の推進  
 【課題2】アイヌ民族に関する学習を窓口人間尊重の意識を高める教育の推進

■目的  
 札幌市学校教育の重点の『基盤』に位置付けている「人間尊重の教育」について、「学習活動づくり」・「人間関係づくり」・「環境づくり」を相互に関連させて取り組み、子ども一人一人が「自分が大切にされている」と実感できる学校づくりの一層の推進を図る。

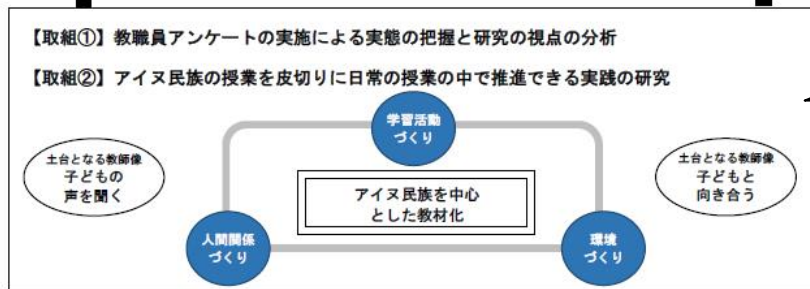
◆推進事業の目的の確認



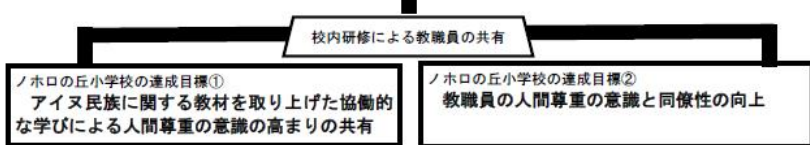
◆課題2における重点的な視点の確認と基本的な考え方の共有



◆授業実践する学年・教科・単元と子どもの実態・目指す姿



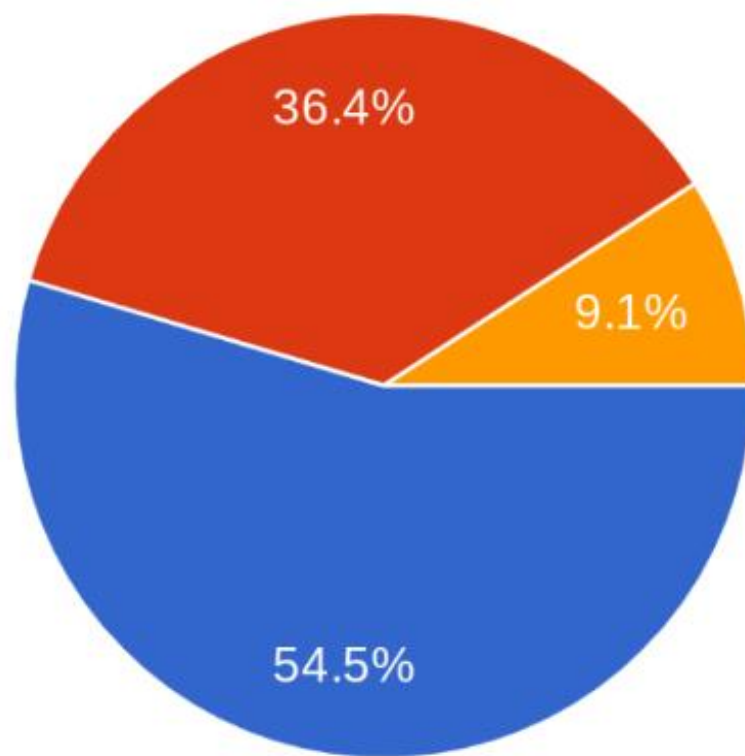
◆取組の整理と土台の整理



◆達成目標の設定

## 【校内で教職員アンケートを実施】

Q1・2 あなたの学級経営・学年経営において、子ども一人一人が「自分が大切にされている」と実感できるための人間尊重の教育の効果が最も高いと感じられるものは？



- 学習活動づくり
- 人間関係づくり
- 環境づくり

### 【アンケート結果から】

学校生活の基本となる授業時間が

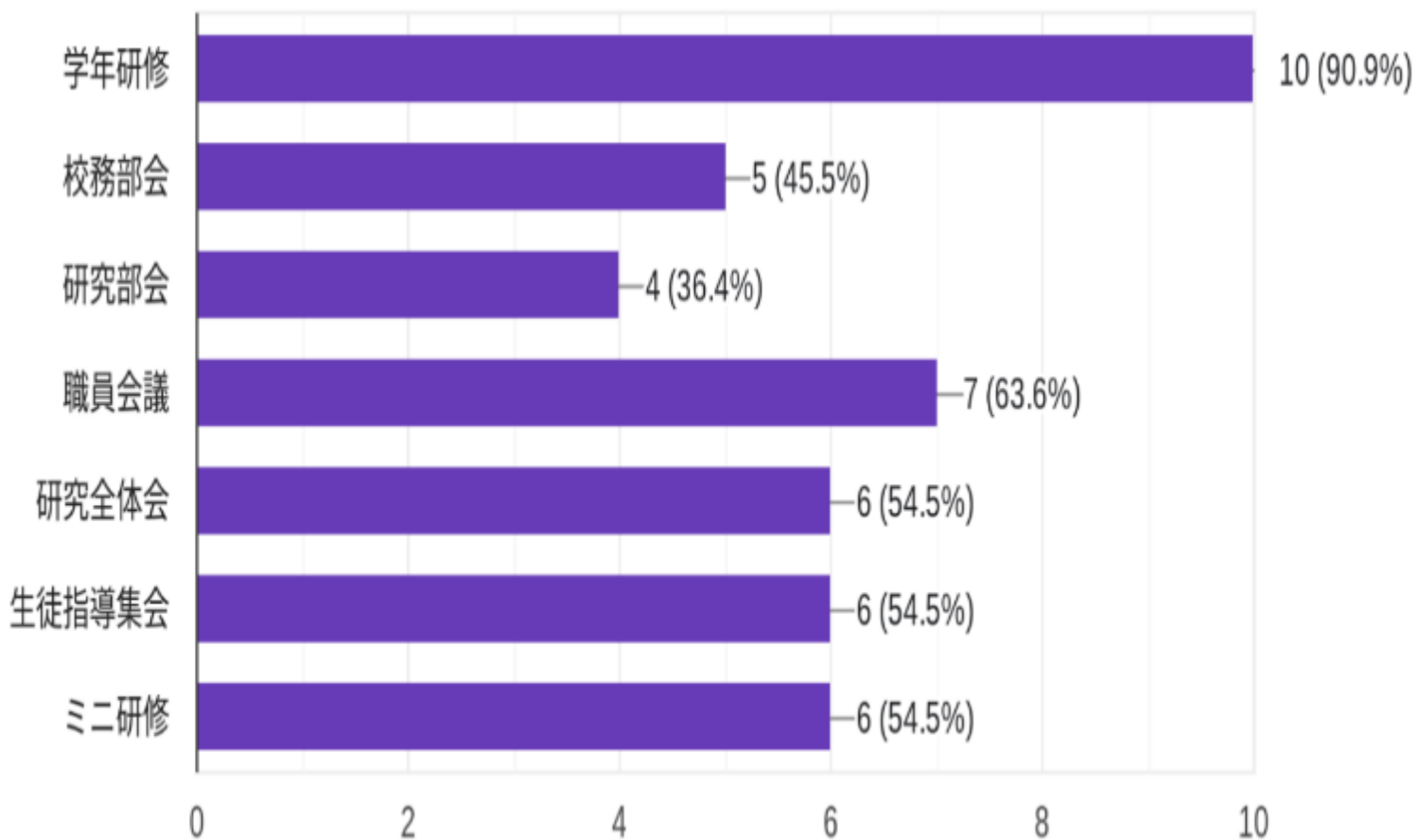
人間尊重の教育の基本

- ・ 協働的な学びが大切
- ・ 教師が子どもを適切にほめて善い価値観を育み自他を大切に
- ・ 係や当番活動などの共同生活においてスキルが育まれる
- ・ 休み時間における友達同士の関わり



## 【校内で教職員アンケートを実施】

### Q3・4 学校の業務において、同僚性を発揮し、教職員自らが相互承認の感度を高めていると感じるのどの業務か？(複数回答可)



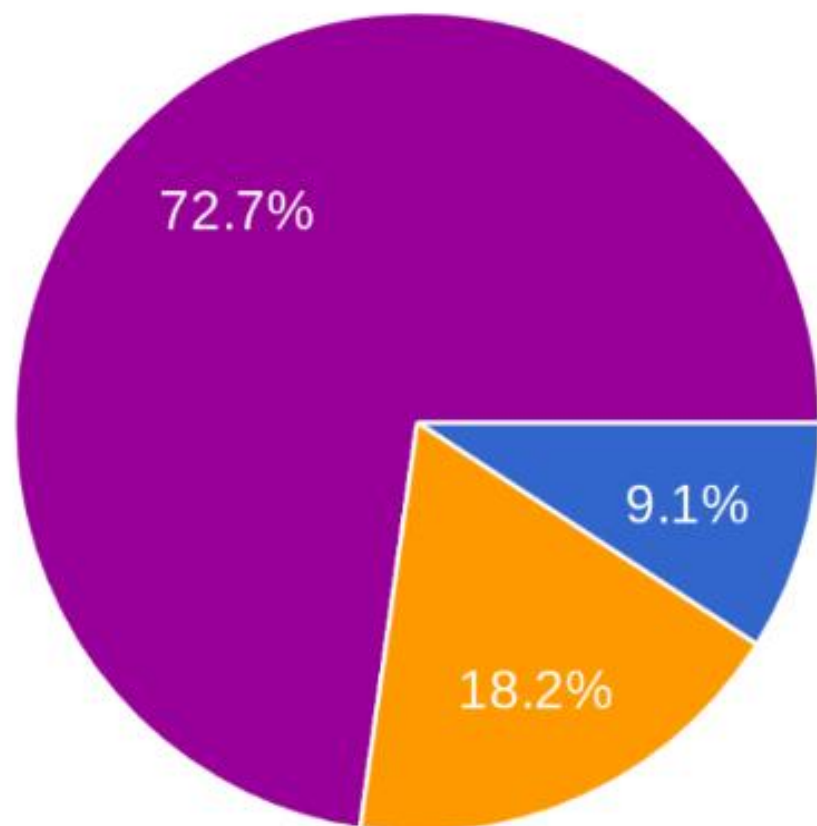
### 【アンケート結果から】

互いを認め合い良さを生かす  
学年研修  
研究部会の運営方法の改善を  
検討

- ・ 担任同士の想いを「聴く」
  - ・ 互いの指導観を尊重と合意形成
  - ・ 共通理解の下で指導
  - ・ 研究部主催のミニ研修会は相互承認の感度が高まる
- 指導スキルの交流は発表する側も聴く側も相互承認される

## 【校内で教職員アンケートを実施】

### Q5・6 アイヌ民族の授業の中で人間尊重の意識が最も高まると感じているのはどの場面か？日常の指導では？



- アイヌの衣食住
- アイヌの遊び
- アイヌの儀式・芸能
- アイヌ神謡集と知里幸恵
- アイヌの歴史

### 【アンケート結果から】

#### アイヌの歴史の学習で人間尊重の意識が高まる

〔日常の指導〕

- ・話し手（聞き手）を大切にした聞き方（話し方）指導
- ・ペア、グループ交流で1時間で自分の考えを1回以上話す機会
- ・間違いを認め尊重する、失敗や間違いをした友達への声のかけ方
- ・先生の失敗を子どもたちに開示し、素直に謝る姿を見せる

# [課題2]アイヌ民族に関する学習を窓口に人間尊重の意識を高める研究の推進

## ④学年ごとの取組(4年生 社会科「アイヌ民族の昔の暮らしと今につながる文化」)

4 本時で育みたい資質・能力

・知里幸恵さんが、アイヌ文化について初めて文字で表現した「アイヌ神謡集」を作り上げた理由を考える活動を通して、アイヌ民族・アイヌ文化を後世へ残し、日本全国へ伝えたかった思いを考え、表現することができる。

5 本時の展開 (7/7)

前時までの子どもの学び  
アイヌ民族と和人と関係や知里幸恵さんの生い立ちを学習している。

知里幸恵さんはどんな人だったかな？

わずか19歳で亡くなった。  
たくさんのアイヌ文化を教えてもらった。  
アイヌ語と日本語両方使える。  
心臓病で体調が悪い中でも、原稿を書き続け、初めてアイヌのことを記した「アイヌ神謡集」を作った。

なぜ、知里幸恵さんは「アイヌ神謡集」を作ったのだろう？

残したい  
・このままではアイヌ文化がなくなってしまう。  
・本にすると、いつても読めるようになる。  
・アイヌ民族の立場をもっとよくしていきたい。  
・未来までアイヌ文化が残るようにしたい。

伝えたい  
・本にすると、色々な人が読めるようになる。  
・様々な人にアイヌ文化を知ってもらいたい。  
・アイヌ民族の今の状況を知ってもらいたい。  
・アイヌ民族のことを日本全国に広めたい。

アイヌ民族・アイヌ文化を日本全国・世界へ  
アイヌ民族・アイヌ文化を未来まで残し、日本全国・世界へ伝えていけるようにするために、「アイヌ神謡集」を作った。

その後、アイヌ民族・アイヌ文化はどうなったのだろう？

1992年 国連でアイヌの権利を訴える  
1994年 董野茂、国会議員当選  
2008年 「アイヌ民族を先住民族とすることを求める決議案」が議決  
2019年 アイヌ施策推進法施行  
2020年 ウポボイ開設

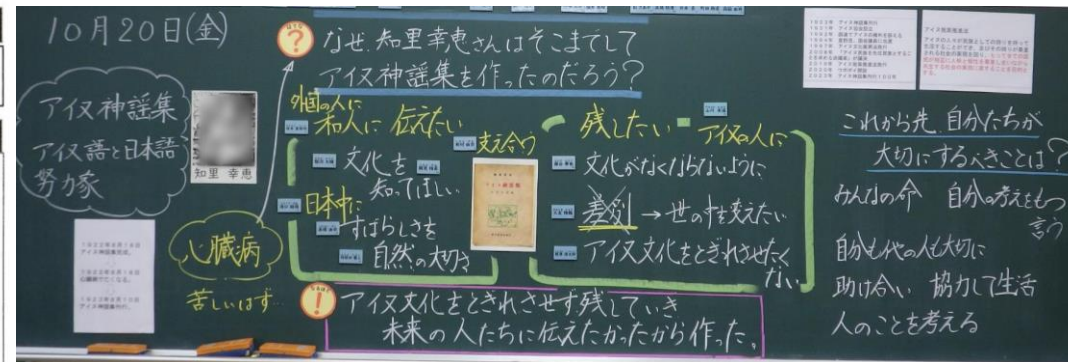
知里幸恵が望んだアイヌ民族や文化が100年後にも残り続けている。

これから先、自分たちが大切にすべきことは何だろうか？

教材との対話  
【既習を生かす】  
前時に学習した知里幸恵さんが、病気に苦しみながらも亡くなる直前まで執筆活動を続けてきた事実から、知里幸恵さんの心情に迫ろうとする意欲をもてるようにする。

他者との対話  
【机間指導】  
アイヌ民族の歴史や和人と関係など既習を生かした意見や「誰に残したいのか」といった詳しい内容を書けるように机間指導で声掛けをする。そうすることで、対話の中で多様な考えが生み、他者の意見を聞く大切さを強く感じられるようにする。  
【意見に共感する、反応する】  
「似ている」「確かに」など、友達の意見に反応しながら聞くことを意識させ、互いの考えを結び付けながら意見交流ができるようにしていく。

自分との対話  
【振り返り】  
ノートに学習を振り返る中で、この先の未来を担う自分たちが大切にすべきことは何かを書かせる。アイヌ文化を大切にすることは、多様な価値観を受け入れたり差別や偏見をなくしたりしていくといった考えをもった児童も指名し、自分たちの生活に生かせる具体的な思いを書けるようにしていく。



### 成果

- ・前時までにアイヌ民族の歴史を学んだことで「差別をなくし、世の中を変えたかった」「アイヌ文化を途切れさせたくなかった」など、多様な考えを生むことができた。
- ・「これから自分が大切にすべきことは何か」を考えさせたことで、相手を尊重する気持ちをより強めることができた。

### 課題

- ・副読本にはない単元構成にしたことで、継続して授業実践を行う際に難しさを感じる。
- ・学習の前半だけでも人間尊重の意識は芽生えていたのではないかという意見もあった。
- ・学習の後半は道徳の学習に近く、4年生の発達段階を考えた際、どこまで到達していればよいかを考える必要がある。

アイヌ施策推進法  
アイヌの人々が民族としての誇りを持って生活することができ、及びその誇りが尊重される社会の実現を図り、もって全ての国民が相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会の実現に資することを目的とする。

法律の文言に着目することで、人間尊重へと子どもたちの思考・意識が向くようにした。

副読本に出てくる人物を取り上げることで、継続した実践が行いやすくなる。

前時までに学習した内容をもとに、課題に対して1人1人が考えを持つことができた。



# [課題2]アイヌ民族に関する学習を窓口に人間尊重の意識を高める研究の推進

## ⑤学年ごとの取組(6年生 社会科「新しい日本 平和な日本へ」)

### 4 本時で育みたい資質・能力

・アイヌ民族の文化を残していくために何が出来るかを考えることを通して、これからの日本を担っていく自分たちの役割を自覚し、全ての人を尊重する意識を高める(思考力・判断力・表現力)

### 5 本時の展開 (6/6)

#### 前時までの子どもの学び

アイヌ民族が日本語を強制されたり、住んでいた土地を追われたりして差別を受けていた歴史やそこに関わる法律を学んでいる。

#### アイヌの人たちが抱えている問題は何だろう

- ・後継者の不足
- ・国民の理解や関心の不足
- ・差別や偏見

このままでは、文化が失われてしまう可能性も...

自然を大切に、様々な恵を生かした貴重な文化を残すべき

つらい歴史があっても、これまで守ってきた人のためにも

#### アイヌ文化を守っていくためには、どうしたらいいのだろう

アイヌ文化の教育を全国でも  
遊びを体験すると  
親しみもてる  
よさが伝わると  
差別もなくなるはず

アイヌは固有の文字をもたないから  
文章で残さない  
ウポポイのような施設を他の場所にも  
できる人がいるうちに  
歌や儀式を映像で残す

#### 他にも差別や偏見を抱えている人は?

- 在日朝鮮人
- 外国人
- 障がいのある人
- LGBTQ

全ての人が尊重される世の中に

アイヌ文化や人権を守るためには、今ある大切な文化を様々な形で残し、そのよさを伝えて差別や偏見をなくすことが必要だ。

#### 教材との対話

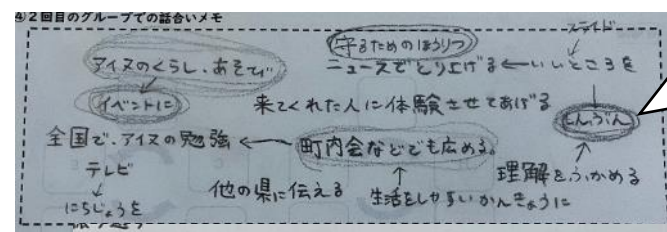
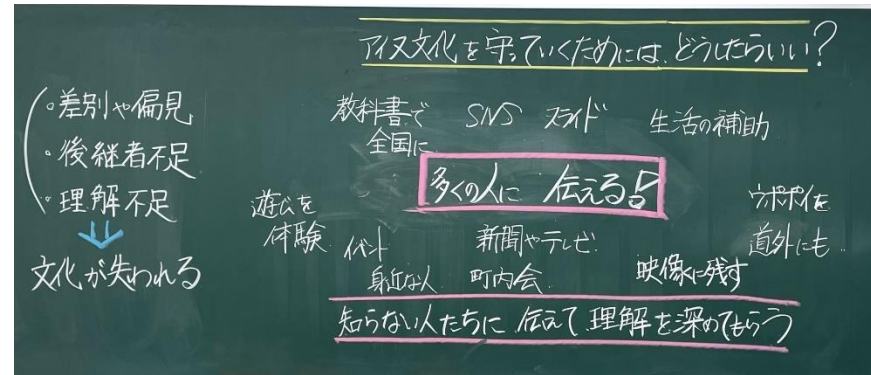
【問題をつねる】  
アイヌ民族が抱えている問題を捉えることで、「文化を守るためには…」という問いにつなげる。具体的な資料としてアイヌ民族の差別や偏見に関わる新聞記事を提示し、問題意識を共有する。

#### 他者との対話

【ワールドカフェ】  
自分の考えを簡単にメモした後は、ワールドカフェ方式で2回メンバーを変えながら交流する。どの友達の見ても受け入れることで、多面的・多角的に解決策を考えることにつなげる。  
また、2回の交流後に話合いで出た意見を共有することで、自分たちの考えのつながりや相違を意識した対話にする。

#### 自分との対話

【意識の変容を価値づける】  
本時の学びを振り返る際に、「これからの自分の行動」について記述している子を価値付け、そのよさを全体に広げる。



ワールドカフェでは自分以外の意見を積極的にメモしていたことで、考えの広がりが見られた。

自分では思いつかなかった考えがたくさんできて、でもみんなが共通していることは知らない人に伝えるということだから、少しずつ、近くにいる人から広めていけたらいいと思った。

ワークシートの振り返り欄には、話し合いで見出した共通点や、これからの自分の行動などについて考えている記述が多く見られた。

アイヌの文化や、アイヌの人々をなくさないためには、伝える、残す、知ることが大切だと思った。今の自分ができていることを考えて、口だけじゃなく、行動に移したい。

### 成果

- ・歴史学習の最後の単元に日本の抱える問題の一つとして取り上げたことで、歴史学習を生かしながら未来を考えていく展開にできた。
- ・ワールドカフェ形式の交流にしたことで、一人一人が本時の問いについて考え、進んで表出する姿が見られた。

### 課題

- ・子どもたちにとっての問題意識の醸成が足りなかった。子どもがより自分ごととして考えるためには、アイヌ文化や歴史を理解する手立てが必要だった。
- ・授業後半で、子どもたちから出た解決策に対して教師がさらに問い返し、考えの妥当性や実現可能性などを吟味する活動があればより深まりを生むことができた。



## 【課題2】

# アイヌ民族に関する学習を窓口に人間尊重の意識を高める研究の推進

### ⑥事業の成果

- ・アイヌ民族に関する学習の授業研究を深め、札幌市全ての小学校で実践している4年生と6年生の社会科において、確かに人間尊重の意識を高められる一般化可能な授業パッケージを考えることができた。
- ・教職員の相互承認の感度を高めるための校内研究の在り方を検討するとともに、各担任がもつ人間尊重の意識を高めるためのノウハウを交流し、授業者以外の先生方に授業の成果を還元することができた。

### ⑦事業の課題

- ・授業検討、参観が該当学年と数名となってしまう、アイヌ民族に関する学習が人間尊重の意識を高めるといふ本事業の価値を校内全員で共有しきれなかった。
- ・授業研究において、教職員の相互承認の感度を高める方策が図られているが、議論を突き詰めるに至るためには校内研究の推進について更なる検討が必要である。
- ・子どもの人間尊重の意識を高めるための様々な方法を研究するまでには至らなかった。

### ⑧今後の方向性

- ・今年度の実践パッケージと成果と課題について校内で共有し、教育課程として位置付けていく。
- ・本校職員が日常的に実践している「人間尊重の意識を高めるための方法」について共有し、研修を深める場を検討していく。
- ・本校職員の同僚性の高さや校務運営において相互承認の感度を高めている事実と方法について、職員全員が自覚し、意図的に学校経営に参画できるようにする。

### ⑨参考資料・文献

- 『アイヌ民族～歴史と文化』（公益財団法人アイヌ民族文化財団 2023年）
- 『令和4年度11月 世論調査』
- 『先住民アイヌはどんな歴史を歩んできたか』（清水書院、坂田 美奈子、2018年）
- 『アイヌ神謡集』（岩波文庫、知里 幸恵 著・中川 裕 補訂、2023年）
- 『知里幸恵とアイヌ』（小学館、三条 和都）
- 『先住民族アイヌを学ぶ 藤戸ひろ子さんに聞いてみた』（日本機関紙出版センター、藤戸 ひろ子、2022年）
- 『学校改善マネジメント』（ミネルヴァ書房、篠原清昭ほか、2012年）